

六月 <small>(水無月)</small> 二十九、三十日 お富士様の植木市	五月 <small>(皇月)</small> 十七、十九日 三社祭 <small>お富士様の植木市</small> 二十五、二十六日	四月 <small>(卯月)</small> 八日 浅草春の観光祭 <small>八日 釈尊誕生日(花まつり)</small> 十四日 白鷺の舞	三月 <small>(弥生)</small> 十八日 浅草観音宗現会金龍の舞	二月 <small>(如月)</small> 三日 節分の日 八日 針供養	一月 <small>(睦月)</small> 初詣 り <small>浅草名所七福神もうで</small>
十二月 <small>(師走)</small> 十七、十九日 歳の市 <small>(羽子板市)</small> 三十一日 除夜の鐘(弁天山)	十一月 <small>(霜月)</small> 三日 東京時代まつり 十五日 白鷺の舞	十月 <small>(神無月)</small> 六日 江戸神輿大会(予定) 十八日 金龍の舞・菊供養	九月 <small>(長月)</small> 二十三日 彼岸会	八月 <small>(葉月)</small> 十五日 万燈籠供養会 二十七日 隅田川花火大会 <small>(ほおずき市)</small> 三十一日 浅草サンバカーニバル	七月 <small>(文月)</small> 九、十日 四万六千日 <small>(ほおずき市)</small> 二十七日 隅田川花火大会

平成十四年壬午

浅草歳時

The Door Step to Japan

vol.4



雷神門



雷門の会の仲間たち

浅草雷門の会(あさくさえんじゆのかい)は、浅草寺のご本尊の聖観世音菩薩が、推古天皇三十六年(六百二十八年)三月十八日、隅田川で網得され、槐の木(現在の駒形堂あたり)に安置されたといういわれから「浅草雷門の会」と称しました。

浅草雷門の会では、楽しい浅草情報を、ホームページ、瓦版、などで御紹介いたしておりますが、四季折々の浅草を自由に、楽しく散策していただきたく、地図、歳時、名所、旧跡、を中心に「日本の扉 浅草」を刊行いたしております。この冊子が、皆様の浅草散策のお役に立てば幸いです。

浅草雷門の会

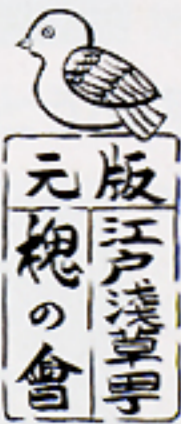
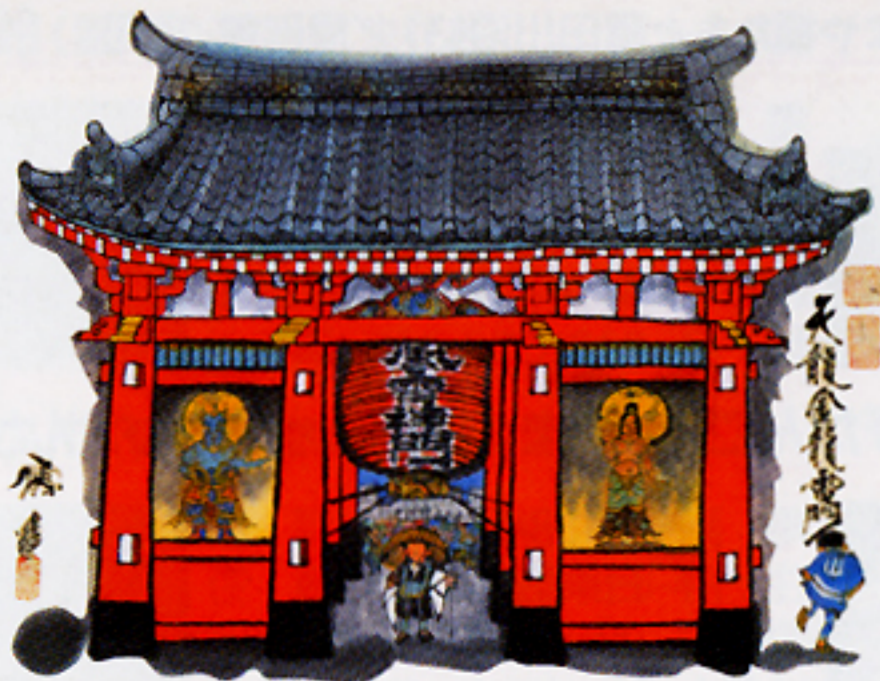
日本の扉

浅草

ASAKUSA

浅草雷門の会

秋号 2002



お問い合わせ
〒111-0032 台東区浅草1-36-7
浅草雷門の会事務局
URL <http://www.asakusa.gr.jp/>
e-mail info@asakusa.gr.jp
発行 平成14年9月15日 vol.4

菊供養会(供華)・金龍の舞



十月十八日に浅草寺で行われる菊供養会は、明治三十年に浅草寺の当時の貫主であった奥田貫昭大僧正の発願で営まれるようになったもので、観音経音誦のもとに終日随時菊供養の加持法楽を行う仏事です。この日には本堂前で金龍の舞も披露されます。

当日は札所前で売られる菊花を本堂で献花すると、既に加持祈祷された下供菊と交換してくれます。これを家に持ち帰って乾燥させ、枕の中に入れておくと頭痛除け、延命長寿の霊験があるといわれています。

金龍の舞は、昭和三十三年十月本堂完成記念に際し、仏法守護の金鱗の龍が天から降り、御本尊を守護したという浅草観音承応縁起によって創始されたものです。

浅草観音の正しい名称は金龍山浅草寺で、金龍山の山号は浅草観音承応縁起(承応三年)に由来しています。縁起には「十八日、寺辺に一夜にして松千株ほど生ず、三日を過ぎて天より長さ百寸ばかりの金鱗の龍、松のなかに下りしがその後あるところを見ずこれによって金龍山という」とあります。

浅草寺舞保存会発行の「浅草寺舞」しおりによれば、「金龍は長さ十五メートル、重さ八十キロ、これをいなせ半纏、はらがけ、もも引の江戸っ子姿の八名が操作し先頭に蓮華珠が一名、合計九名が一組であります。お囃子は笛三味線(浅草寺組合芸妓が台車に乗ります)太鼓、鉦、妙八、チャップ、宗盤、ササラで約三十名の要員です。先頭の蓮華珠は観音様を表徴し、金龍はこの観音様の姿に欣喜雀躍して舞うので勇姿華麗な舞であります」と説明されています。



酉の市(十一月一日、十三日、二十五日)

もともとは農民が秋の収穫を祝い、感謝のしるしに神社に鶏を奉納した「とりまつり」が江戸時代に「酉祭」になり、祭に附随して市が立つようになって「酉の市」と呼ばれるようになりました。そして、神社から農家の実用品として授けた熊手が「かっこむ」とりこむ」などの縁起と結び付いて、商売繁盛を願う催しに変化してきたといわれます。

「酉の市」で有名なのが浅草・千束にある鷲(おおとり)神社ですが、神社の愛称である「おとりさま」がいつしか市の愛称にもなり、現在では「おとりさま」といえば鷲神社の「酉の市」のことを指すほどになっています。「酉の市」は、十一月の酉の日に行われて、一の酉、二の酉と数えますが、昔から三の酉まである年は火事が多いという俗説があります。

当日、神社周辺には縁起ものの熊手を商う業者が二〇〇余り出店し、境内は華やかな熊手と人波で賑わいます。「熊手につけるものは大判・小判・福オカメ・七福神・鶴亀・松竹梅・大福帳・目出度い」というところから魚の鯛、それから巾着、これは入ったお金が逃げないようキュット締めるので、金の鯨は家持ち城持ちになれるよう……」

また、熊手に値がつくや「ありがとうございます。それではお客様様の商売繁盛、家内安全、交通安全を祈願しまして、ヨーオ！ シャンシャン！ シャンシャン！ シャンシャン！ シャンシャン！ シャンシャン！ シャンシャン！ シャンシャン！ シャンシャン！」景気のいい手締め音が境内一杯にあふれます。

浅草に冬を告げるお酉さま、皆様もその活気と元気を味わいにいらっしやいませんか。

